尾根づたいの峠越えとせせらぎの道 三頭峠（さんとう）・寒風峠（さむかぜ）コース

コースのあらまし

その昔、阿波（徳島）から金毘羅さんを詣でる阿波街道であった久保谷から三頭峠への道。三頭峠から寒風峠へ、県境に沿って歩く起伏の激しい尾根づたいの道。そして、明神川上流のせせらぎをお供に、寒風峠から平家ゆかりの横畑集落へ、さらに出発点へとゆったり下る道。三頭峠・寒風峠コースは変化に富んだ山歩きの醍醐味と歴史ロマンあふれるコースです。道の駅から三頭峠まで約1時間20分、三頭峠から寒風峠まで約1時間、寒風峠から杉王神社まで約1時間、杉王神社から道の駅まで約40分。

■駐車場/道の駅ことなみ第2駐車場

■コース

道の駅 → 久保谷 → 三頭峠 → 寒風峠 → 横畑集落 → 杉王神社 → 道の駅

杉王神社・大杉（香川県指定天然記念物）

横畑を過ぎ、県道久保谷・塩江線まで下ってくると、大きな杉が見えてきます。
杉王神社境内にそびえる大杉です。高さ約50m、幹の太さ9.28mは県下最大。樹齢は推定800年以上で香川県指定天然記念物。かつて幹の下部には大空洞があり、子供が25人も入って遊ぶことができたと伝わっています。

平家ゆかりの横畑地区

標高650m前後の山腹、段々畑の中に民家が点在する横畑集落。ここには、源平屋島合戦で敗れた平国盛ら数十騎が阿波の祖谷へ落ち延びる途中、平清盛の孫にあたる平寿盛（すみもり）の一族数人が住み着いたという伝承が残っています。横畑という地名は、平家の軍旗を横に倒して農民になったから"横旗"すなわち横畑になったといわれ、今でも墓碑に平寿盛の孫であると刻されている墓をはじめ、平家ゆかりの十数基の墓が現存しています。

せせらぎの道を歩く

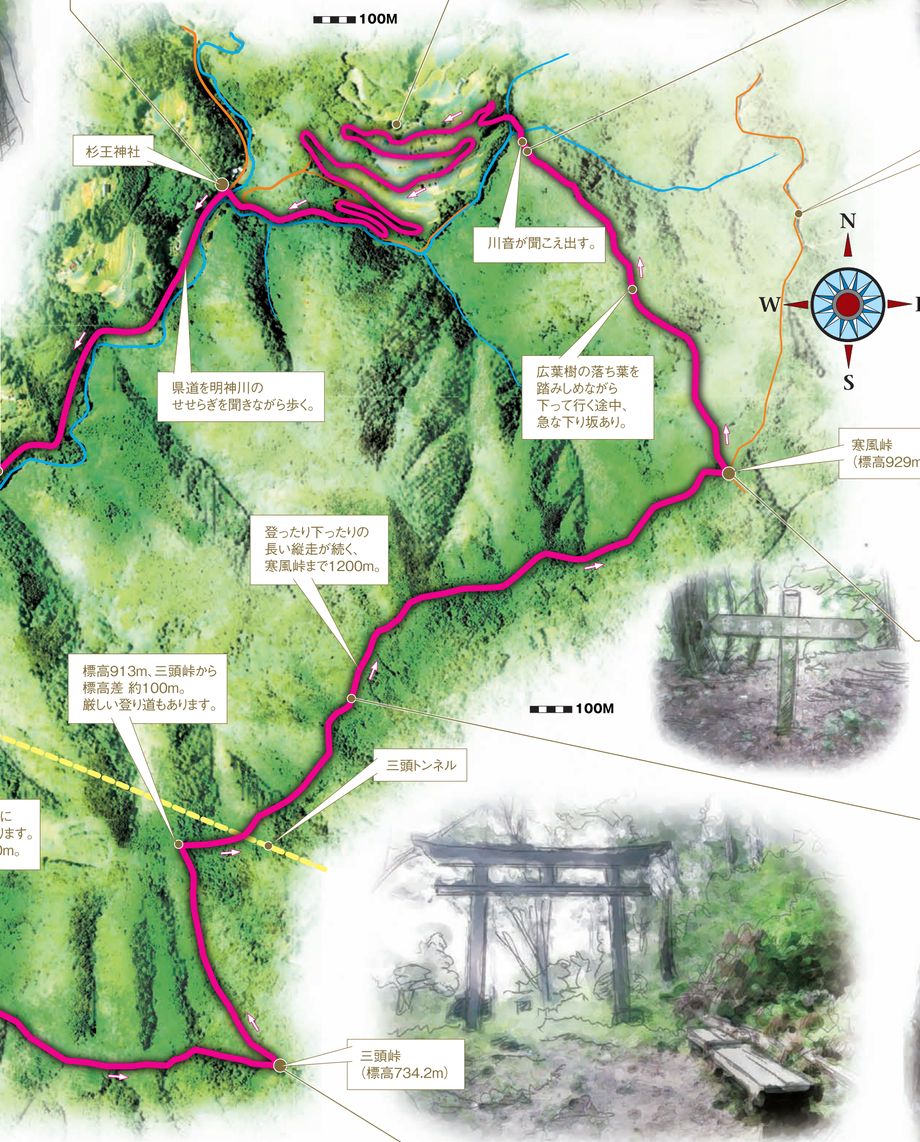
寒風峠から横畑へは約1,750mの道のりですが、3分の1ほど進むとやや急なジグザグ道があり、それを越えると心地よい川音が聞こえ始めます。明神川支流のせせらぎとともに歩を進めると、ほどなく木々の間から横畑集落が右手に見えてきます。

温泉施設もある道の駅ことなみ

新緑・紅葉が素晴らしい美霞洞（みかど）渓谷周辺は、美人の湯として人気の美霞洞温泉の湯治場。コース起点となっている道の駅ことなみには、美霞洞の湯を利用した温泉やレストラン、青空市場などがある「エピアみかど」が併設されています。

明神川に沿って歩く県道久保谷・塩江線

杉王神社から出発地点までは、明神川のせせらぎに疲れをほぐしながら、県道久保谷・塩江線をゆったり歩きます。
帰りは「エピアみかど」で入浴。コースを歩き終えた後のひと風呂は格別です。

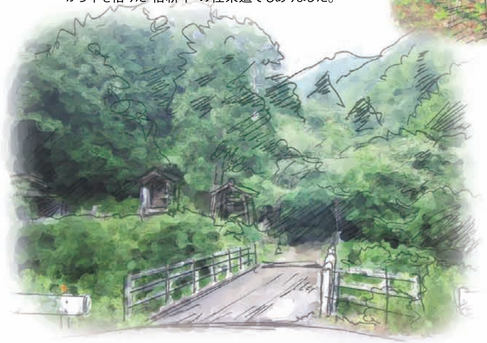


寒風峠

標識とベンチがあるだけの峠ですが、名前の通り、吹き渡ってくる風に身をまかせて一休止。そのままっすぐ行けば竜王峠・竜王山に至りますが、コースはここで左に折れ、平家ゆかりの横畑を目指して山道を下っていきます。

県道久保谷線から三頭峠へ

道の駅ことなみから国道438を南下。三頭トンネル入り口手前で県道久保谷線に入って久保谷橋を渡り、三頭峠を目指します。
この道は、江戸時代より阿波街道として、阿波（徳島）と金毘羅さんを結んだ参詣の道であり、また農繁期に阿波から牛を借りた"借耕牛"の往来道でもありました。



三頭峠から寒風峠へ

最高峰の竜王山（標高1,059.9m）を頂に、香川と徳島の県境に尾根を連ねる讃岐山脈。三頭峠から寒風峠への道は、起伏のある尾根づたいに歩く約2400mの道のり。途中、3カ所ほど勾配の険しい登り坂がありますが、200mごとに標識もあり、落葉樹の雑木林を縫うような山歩きが楽しめます。

渓谷登りの道

三頭峠越えの道も今ではすっかり姿を変え、所によっては大きな岩と水流が道のりを阻む、まさに渓谷登りさながらの道。時折出合う石仏にかつての祈りの道らしい面影を辿りつつ、左岸や右岸に逃げ道を見つけながら登っていきます。

"借耕牛"

夏と秋の農繁期、讃岐の農家では、阿波山間部の農家から農作業のために牛の賃借りしていました。この牛が"借耕牛"と呼ばれるもので、江戸時代中期頃から始まり、昭和30年代まで続いていました。

往時の名残を伝える三頭峠

急峻な坂道の先に鳥居が見えてくると三頭峠。かつて多くの往来があった峠にふさわしく、三頭神社の鳥居周辺には、金毘羅さんを表す丸金印の道標や男女一対のお地蔵さんが立っています。垂れ乳の柔和な女仏は天宇受売命（あめのうずめのみこと）、猿顔の男仏は猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）で、江戸時代末期の天保年間に据えられたとされています。